

令和2年(2020年)7月16日(木)
(公財)広島平和文化センター
平和記念資料館学芸課 課長：加藤
電話：241-4004 内線 5804
担当：落葉、植野

被爆75年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ 第一部 礎を築く—初代館長 長岡省吾の足跡 を開催します

広島平和記念資料館は今年8月開館65年を迎えます。資料館では開館以来、被爆の痕跡が残る資料を展示し、原爆被害の実相を伝えてきました。その展示の礎を築いた人物は長岡省吾。長岡氏は資料を収集するだけでなく原爆に関する調査・研究を行い、生涯をかけて被害の実態を明らかにしようとしました。

この企画展では、近年長岡氏の遺族から資料館へ寄贈された資料を基に同氏の足跡をたどりながら、資料館が開館するまでのあゆみと開館初期の状況について紹介します。

1 期間

令和2年(2020年)7月22日(水)～令和3年(2021年)2月23日(火・祝)

2 会場

広島平和記念資料館東館1階 企画展示室

3 展示内容

(1) 焦土を歩いて

長岡氏が被爆直後から広島市内に入り、資料の収集や熱線を受けた瓦や石の調査を行ったこと、墓石や建物に残る熱線による影を基に原爆の爆発高度や爆心地を推定したことを伝えます。

(2) 収集した資料の公開

長岡氏が収集した資料を基に1949年(昭和24年)に「原爆参考資料陳列室」が開設されたことや、その翌年の1950年(昭和25年)に原爆記念館が開館したことを伝えます。

(3) 広島平和記念資料館の開館

1955年(昭和30年)8月24日に開館した広島平和記念資料館の初期の展示や、当時の関係者の証言などを交えながら日々の資料館の様子を伝えます。

(4) 衰えぬ情熱

館長を退任した後も長岡氏が、被爆資料を収集し調査を続けたことや、資料館の展示協議会の委員となり展示の課題を検討していたことを紹介します。

4 展示点数

写真パネル、現物資料など約 160 点

＊主な資料

- ・長岡氏が焼け跡から収集した熱線を受けた瓦と溶けた皿の塊
- ・墓石の影の方角を記した手帳
- ・爆心地を求めるための線を書き込んだ図面
- ・原爆記念館に展示されていた上着
- ・長岡氏が作成した冊子「HIROSHIMA」
- ・広島平和記念資料館の開館初期に展示されていた亡くなった動員学徒のズボン
- ・長岡館長のネームプレート

5 入場料

無料

<参考>

長岡省吾氏略歴（1901年8月11日－1973年2月1日）

1901年(明治34年)8月11日 両親の移民先のハワイで生まれる。

1918年(大正7年) 広島市の修道中学校で学んだ後、中国大陸へ渡る。

1921年(大正10年) 中国東北部にあった哈爾濱（ハルピン）露支語専門学校地質学専攻卒業。

1944年(昭和19年) 広島文理科大学(現在の広島大学)地質学鉱物学教室に就職。学生の指導にあたる。

1948年(昭和23年) 被爆資料の収集と調査を行う専門職として広島市に採用。

1955年(昭和30年)8月24日 広島平和記念資料館開館。長岡氏は初代館長を務める。

1962年(昭和37年)1月末 資料館の館長を退任。

1973年(昭和48年)2月1日 71歳で亡くなる。